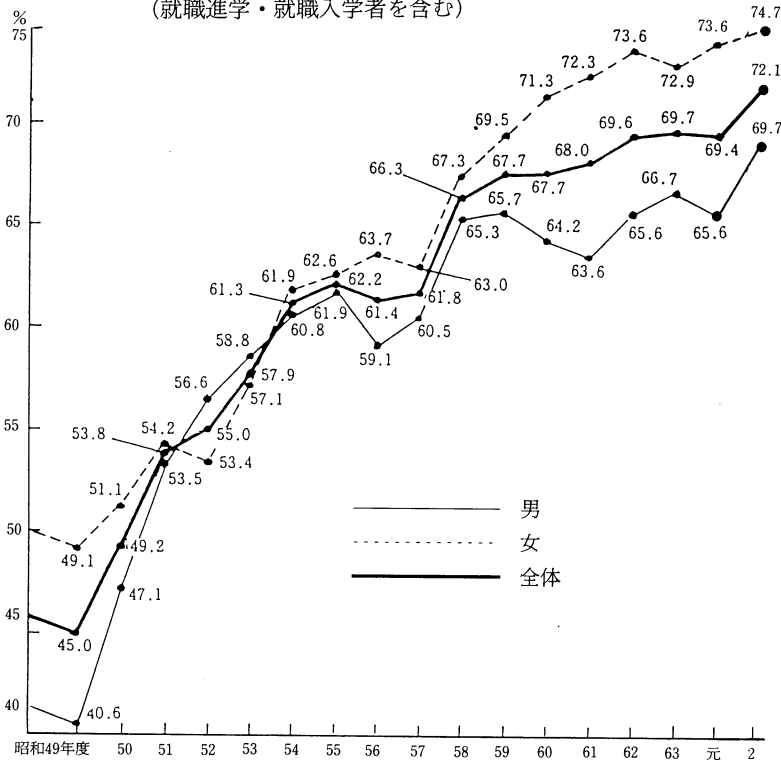


図2 就職者の県内留保率の推移 (公立全日制)
(就職進学・就職入学者を含む)



人などである。
(六) 大学入学者選抜大学入試センター試験の志願者
平成三年度大学入学者選抜大学入試センター試験の志願者数は、男子二千三百五十八人(前年度二千二百八十七人)、女子千九百九十九人(前年度千七百七十一人)、計三千五百五十七人(同三千四百五十八人)で前年度

より九十九人増加している。(県立高等学校校長協会調べによる。)
三、就職状況について

(一) 一般的な状況(表1、図1の②、図2参照)

就職者数は、男子六千三百三十五人(51.8パーセント)、女子五千四百八十八人(46.8パーセント)で、就

職率は前年度に比して男子は同率、女子は1.0ポイント減少し、全体では0.5ポイントの減少となった。
学科ごとの就職率をみると、すべての学科で減少している。

男女別では、男子は普通科で増加したほかはすべて減少し、女子は普通科、商業科、家庭科で減少し他は増加した。
また職業科全体の就職率は78.9パーセントと六十年以降最低となった。

就職者の実数では、普通科の四千八百七十七人が最も多く、就職者全体の41.5パーセントを占めている。

次に就職進学者・就職入学者の計三百五十四人(前年度三百四十七人)を含めた就職率は50.9パーセント(前年度51.4パーセント)となっている。
(二) 産業別就職状況(就職進学者・就職入学者を含む)(表7参照)

製造業六千二百二十六人(50.6パーセント)、サービス業千九百八十四人(16.4パーセント)、卸売・小売業千九百五十二人(16.1パーセント)が例年どおり上位を占め、この三業種で全体の83.2パーセントを占めている。前年度より0.1ポイント減少している。
ここ数年間の傾向をみると、農業、漁業などの一次産業への就職率は、

五十九年度以降1パーセントを下回り、二年度は前年度と同じ0.4ポイントとなった。

製造業などの二次産業では、54.9パーセントと前年度より0.1ポイントの増となり四年連続の増加を示した。

流通サービス業などの三次産業では、44.9パーセントで前年度より0.2ポイント増加した。

(三) 都道府県別就職状況(就職進学者・就職入学者を含む)(表8、図2参照)

就職進学者・就職入学者三百五十四名を含む全就職者一万二千九十七人中、県内就職者は男子四千四百四十三人(69.7パーセント)、女子四千二百七十四人(74.7パーセント)、計八千七百一十七人(72.1パーセント)で県内留保率は前年度に比して2.7ポイント増加し、四十九年度以降最高を示した。

就職者の県内留保状況を学科別にみると、商業科74.7パーセント、家庭科74.1パーセント、農業科73.6パーセント、普通科72.0パーセントなどとなっている。